



展開の概要

- 導入概要ワークフロー（1ページ）

導入概要ワークフロー

ご使用のプラットフォームのリリースノートのドキュメントをお読みになることを推奨します。要件を確認して、ハードウェアとソフトウェアがそれらに対応していることを確認します。すべての要件を満たしていない場合は、展開が機能しない可能性があります。



重要 Windows 版 Cisco Jabber および Cisco JVDI Agent のバージョンは常に一致している必要があります。ただし、Cisco JVDI Client バージョンは同じであるか、以前のバージョンである可能性があります。使用可能な機能セットは、以前のソフトウェアバージョンによって決定されます。

Cisco JVDI エージェントと Cisco JVDI クライアントの両方をインストールする必要があります。それ以外の場合は、ソフトフォンが登録されません。

手順

ステップ1 指示に従って、Windows 版 Cisco Jabber を Jabber クライアントのインストール環境に展開します。

重要 VDI 版 Cisco Jabber Softphone ユーザ用の CSF デバイスを作成し、各ユーザを以下のアクセス制御グループに追加する必要があります。

- 標準CCMエンドユーザ（Standard CCM End Users）
- 標準CTIを有効にする（Standard CTI Enabled）

お使いのリリース用の *Cisco Jabber* のオンプレミス展開を参照してください。

ハイブリッド展開の場合は、使用しているリリースの *Cisco Jabber* のクラウドとハイブリッド展開を参照してください。

Cisco Jabber の導入ガイドは、次のところから入手できます。 <https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/jabber-windows/products-installation-guides-list.html>

ステップ2 データセンターにホストされた仮想デスクトップを作成して設定します。

ホストされた仮想デスクトップ(HVD)がをインストールできる状態にあることを確認します。
*Cisco JVDI Agent*ホストされる仮想デスクトップワークフローの設定 を参照してください。

ステップ3 シンクライアントを設定します。

シンクライアントのドキュメントを参照してください。

ステップ4 シンクライアントと HVD に VDI 版 Cisco Jabber Softphone コンポーネントをインストールします。

- コンポーネントワークフローのインストール: HP シン Pro
 - コンポーネントワークフロー—Ubuntu のインストール
 - コンポーネント ワークフロー—ユニコン eLux のインストール
 - コンポーネントワークフロー—Windows のインストール
-